

書評：山陰文化ライブラリー

「松江城と城下町の謎にせまる」(ハーベスト出版) 著者 石井 悠

先年、「シリーズ藩物語 松江藩」(現代書館)で、松江藩主松平家を中心として、その治世の歴史を、緻密な資料から読み解きほぐしてきた著者が、今回はお城の成立の謎に迫っている。松江城は、現存する12か所の木造建造物の一つとして、現在、市を挙げて国宝指定に向けて運動中であるが、千鳥破風だけのすっきりとした構成、また天守からの眺望など、城と城下町そして景観と三拍子揃ったお城は日本で唯一のものであろう。著者は、天守の解体修理や城下町の発掘調査などを踏まえ、江戸時代の暮らしを解明しつつ、城と城下町の変遷を追いかける。あえて言えば、一寸専門的に過ぎる嫌いもあるが、同好の士には応えられない事だろう。築城の際には職人たちが、作業の手順で材料に刻印したり、また名を遺したりするが、その裏方が暴露されていくのも楽しいことだ。また、軟弱地盤の城下の沈下を防ぐため、排水側溝を設けたり、ウラジロを敷き詰めたりする工夫も、現代につながる技術である。

脚注や用語解説、参考文献なども丁寧に記載してある。観光目的というより、故郷解明の一助として手元に置きたい一冊である。

- ・書籍名：山陰文化ライブラリー「松江城と城下町の謎にせまる」
- ・著者：石井 悠 (松江北高38年卒・14期生)
- ・出版社：ハーベスト出版 1200円



平成25年7月31日

(文責：泉 宏佳・38年卒・14期生)